



## ワット・シー・チュム

寺院名のシー・チュムは「菩提樹の森」を意味し、歴史公園の城壁の西北に位置しています。ワット・シー・チュムには、スコータイを象徴する高さ15メートル、幅11.30メートルの「アチャナ仏」が祀られています。「アチャナ」は「動かぬもの、変わらぬもの」という意味で、現在も変わらずスコータイの街を見守っています。

## 世界の地域から

## スコータイ (タイ)

スコータイはタイ北部にある都市で、現在確認されているタイ最古の王朝であるスコータイ王朝の都として栄えました。観光政策に力を入れているスコータイには、1991年に世界遺産に登録されたスコータイ歴史公園をはじめ、数多くの遺跡が残されており、2017年度に実施した地域間交流促進プログラムでも訪問しました。



ワット・マハタート

上座部仏教を信仰する国々では仏舎利（マハタート：釈迦の遺骨や遺灰）を祀る習慣が古くからあり、どの王朝にもその仏舎利を納める寺院（ワット・マハタート）が建立されています。

スコータイにもワット・マハタートはあり、多くの仏塔や仏像が立ち並んでいます。本堂にあったシーサカヤムニー大仏は、ラーマ1世によってバンコクのワット・スタットに移され、スコータイで見ることができませんが、仕事運、特に昇進のご利益があり、満月の夜にお参りをするとご利益が倍増すると言われています。